

両総用水堤四十米決壊

泥海と化した長倉の水田四百アール

被害拡大を防いだ主婦の機軸

八月八日午後四時頃、長倉地先の両総用水路約四十米が山腹の遊水の重圧で決壊した。丁度長生郡方面に送る用

水が大統機場から二基のポンプで送水中のことなので、五

時半ほどで水勢は山腹の土砂と四〇メートルの堤防を押し流して一〇〇アールの水田を石破の下に埋め、勢余った

流れは付近一帯の水田約六〇

アールに溢れ、その惨状と

害対策委員会を結成して被

害の水田の復旧工事を開始し

て、この工程を要する方元区長伊藤賀一氏等は災

害の水田に囲まれた被害者

の回答を「すがりつきよう

な眼で関係者を見つめる様

は、此の大惨事発生は、

よう只茫然としていた。

行つたるは、原因乱反射して、

水田の土砂を起し、近所の人に

おもせられ、その惨状と

害対策委員会を結成して被

害の水田に囲まれた被害者

が急を聞いて馳せつけた

人々はまるで悪夢を見ている

よう只茫然としていた。

泥海と化した長倉の水田四百アールは、此のようないかたの事件である。この件は、庭に居る

トヨ子さん談「四時一寸とま

うつたであろう」と眞の係員も

言っていたが、此の見習と機

軸の労働者は長倉一〇四番

地伊藤尚明さん妻とよ子さん

とよ子さん談「四時一寸とま

うつたであろう」と眞の係員も

言っていたが、此の見習と機